ボストン美術館所蔵岡倉天心旧蔵漢籍について

About the old Chinese book collection of Okakura Tenshin at the Museum of Fine Arts, Boston

松村　茂樹[1]
[1]大妻女子大学文学部

Shigeki Matsumura [1]
[1]Faculty of Language and Literature, Otsuma Women's University
12 Sanban-cho, Chiyoda-ku, Tokyo, 102-8357 Japan

キーワード：ボストン美術館，岡倉天心，旧蔵漢籍
Key words：the Museum of Fine Arts, Boston, Okakura Tenshin, the old Chinese book collection

抄録

世界有数の美術館である米国のボストン美術館は，東洋美術の殿堂とも称せられる．その東洋美術コレクションが，1904年から亡くなる1913年まで在籍（1910年からは中国・日本美術部長）した岡倉天心（名は覚三，1862―1913）によって整備され，充実の度を加えたことは有名である．

岡倉は，卓越した学識を具えていたが，漢学者というわけではなかった．だが，早年からの友人で，当時上海に住んで「中国最後の文人」たる呉昌碩（1844―1927）と深く交わった長尾雨山（1864―1942）に教示を請うなどして，漢学の造詣を深めた．

筆者は，2015年4月より1年間，ボストン大学客員研究員としてボストンに滞在し，ボストン美術館で岡倉及び長尾の中国関連事業に関する資料調査をする機会に恵まれた．そして，中国・日本美術部の図書室で，当時購入された関係漢籍類226件を調査し，「ボストン美術館中国・日本美術部図書室所蔵漢籍目録抄」を作成して，その中に，岡倉の歿後，遺族から寄贈された旧蔵漢籍39件が含まれていることを確認した．

本稿では，これら岡倉天心旧蔵漢籍を中心とするボストン美術館所蔵漢籍を紹介し，その分析を行いたい．このことにより，ボストン美術館を東洋美術の殿堂たらしめた岡倉の漢学造詣の本質を明らかにできると思われる．

はじめに

世界有数の美術館である米国のボストン美術館は，東洋美術の殿堂とも称せられる．その東洋美術コレクションが，1904 年から亡くなる 1913 年まで在籍（1901 年からは中国・日本美術部長）した岡倉天心（名は覚三，1862―1913）によって整備され，充実の度を加えたことは有名である[1].

岡倉は，卓越した学識を具えていたが，漢学者というわけではなかった．だが，早年からの友人で，当時上海に住んで「中国最後の文人」たる呉昌碩（1844―1927）と深く交わった長尾雨山（1864―1942）を 1912 年 11 月 15 日付で同美術館鑑査委員に迎え，教示を請うなどして，漢学の造詣を深めるよう務めている．

筆者は，2015 年 4 月より 1 年間，ボストン大学客員研究員としてボストンに滞在し，ボストン美術館で岡倉及び長尾の中国関連事業に関する資料調査をする機会に恵まれた．そして，中国・日本美術部の図書室で，当時購入された関係漢籍類 226 件を調査し，「ボストン美術館中国・日本美術部図書室所蔵漢籍目録抄」を作成して，その中に，岡倉の歿後，遺族から寄贈された旧蔵漢籍 39 件が含まれていることを確認した．また，岡倉旧蔵漢籍以外にも，長尾の旧知たる呉昌碩が社長を務めていた印学研究団体・西泠印社刊行のものや，帰国後の長尾が深交した羅振玉（1866―1940）の著書が多く含まれていることを確認した．

本稿では，これら岡倉天心旧蔵漢籍を中心とするボストン美術館所蔵漢籍を紹介し，その分析を行いたい．このことにより，ボストン美術館を東

洋美術の殿堂たらしめた岡倉の漢学造詣の本質を明らかにできると思われる．

1．岡倉旧蔵漢籍発見の経緯

前述のように，筆者は，2015 年 4 月より 1 年間，ボストン美術館で資料調査をさせていただいた．筆者をボストン美術館に紹介してくれたのは，ボストン大学に筆者を客員研究員としてお迎えくださった白謙慎教授（現：浙江大学教授）である．白教授は，ボストン美術館で資料調査をしたいという筆者の願いに応え，ボストン美術館中国美術部長・Nancy Berliner 氏をご紹介くださった．Berliner 氏にお会いして驚いたことには，彼女は当時から数えて 33 年前，北京の中央美術学院美術史系に共に留学していた同学であった．この旧友のご高配により，筆者はキュレーターの方々がいらっしゃる部屋に入れていただき，資料調査を進めることができたのである．この部屋は，現在はアジア・アフリカ美術部となっているが，岡倉がいた当時は，中国・日本美術部という名称であった．よって，本稿では，当時購入・寄贈された漢籍を取り上げることから，この名称を使いたい．

この部屋には，中二階になっているところに図書室がある．そこには主に和漢籍が置かれており，漢籍には書画・金石学関係のものが多かった．中国・日本美術部の図書室であるから，書画関係のものが多いのは当然であろうが，金石学関係の漢籍が多いのは，後述する青銅器コレクションの研究のためであろうと思われた．筆者は，この調査を Berliner 氏に申し出たところお許しをいただき，当時，ボストン美術館でパートタイム研究員をされていた陳霄女士が手伝ってくれることになった．陳女士は，当時，ボストン大学大学院で白教授の指導を受け，筆者のアシスタントもしてくれていた方で，親身の協力を惜しまれなかった．

こうして，陳女士の協力のもと，図書室から漢籍をワゴンに乗せて，筆者に与えられた臨時研究室に運び込み，題簽，封面，印記などを確認，撮影する作業を行った．その過程で，岡倉の書き入れやその筆跡になる題簽，また岡倉の雅号である「碧龕」印がある旧蔵漢籍 39 件を発見したのである．

もとより，この図書室には，これら 39 件以外にも岡倉旧蔵漢籍があると思われる．しかしながら，書き入れ，題簽，印記などが無いものは証明ができないため，ここではこの 39 件のみを取り上げることにする．ちなみに，Berliner 氏に確認したところ，これらの漢籍に関しては，目録も寄贈・購入時の記録も文書としては残っておらず，目録はこれから作成する予定とのことであった．

図 1　ボストン美術館所蔵岡倉旧蔵漢籍①「34875 呉興金石記」

図 2　ボストン美術館所蔵岡倉旧蔵漢籍②「34334 玉台画史」

２．岡倉旧蔵漢籍一覧

この図書室所蔵の漢籍には，購入・寄贈順と思われる通し番号が付されている．この番号順に，発見した岡倉旧蔵漢籍 39 件を，書き入れや題簽，印記等と共に記しておく．

20797　名媛詩仙集（岡倉題簽：女詩仙集）　藤昌琳　岡倉「Onna Shisenshu 2vols. Japanese design, from Kambun 11th to Enpo 6th」書き入れあり　「思永館」印あり　和刻本
21062　孝経列伝（孝順事実）　朱棣命　岡倉「Kokio Retsuden 1vol Japanese reprint」書き入れあり　和刻本
21085　新編　古列女伝　劉向　岡倉「Ko Retsujoden 2vols. Chinese copy of book, Kayu 8th(1063ad)　Printing Koki」書き入れあり　「小島氏図書記」印あり
29604　博古図録　王黼　「趙氏家蔵」印あり　黄叔琳「北平黄氏万巻楼図書」印あり　岡倉「Hakkozu－28vols. Kasei 7th－(Very rare, rarest of metal books)」書き入れあり
34098　南薫殿図像攷 国朝院画録 西清箚記　胡敬　「縁窓入静」印あり　岡倉題簽あり（「碧龕」印はなし）
34334　玉台画史　湯漱玉　道光丁卯（道光に丁卯なし）秋七月銭唐汪氏振綺堂開雕　「GIFT OF Okakura-Kakuzo 1918」シールあり　岡倉題簽　「波士敦美術館図書印」あり　「縁窓入静」印あり
34341　敦煌石室遺書　羅振玉　「GIFT OF Okakura-Kakuzo 1918」シールあり　「岡倉」楕円印あり　「波士敦美術館図書印」あり　「庚戌（1910）晩春羅叔言所贈今持贈呉浦大人先生 尚識」書き入れあり
34374　夢溪筆談　沈括　挟板帙入　岡倉題簽「縁窓入静」印あり　「GIFT OF Okakura-Kakuzo 1918」シールあり
34700　金石叢書一　朱記榮　光緒戊子(1888)冬月行素草堂蔵板　朱記榮「槐廬主人」印あり　岡倉題簽「碧龕」印あり
34707　金石叢書二　朱記榮　岡倉題簽「碧龕」印あり
34713　金石叢書三　朱記榮　岡倉題簽「碧龕」印あり
34721　金石叢書四　朱記榮　岡倉題簽「碧龕」印あり
34727　金石叢書五　朱記榮　続刻金石三例　光緒乙酉(1885)冬月呉県朱氏校刊　岡倉題簽「碧龕」印あり
34734　金石叢書六　朱記榮　趙氏補寰宇訪碑録 光緒丙戌(1886)孟冬呉県朱氏校刻　岡倉題簽「碧龕」印あり
34834　穰梨館過眼録　陸心源　光緒十七年(1891)八月呉興陸氏刻于家塾　「LIBRARY MUSEUM OF FINE ARTS, BOSTON, MASS」スタンプあり　岡倉題簽「碧龕」印あり
34842　穰梨館過眼録 続編　陸心源　光緒十七年(1891)八月呉興陸氏刻于家塾　「LIBRARY MUSEUM OF FINE ARTS, BOSTON, MASS」スタンプあり　岡倉題簽「碧龕」印あり
34864　京畿金石考　孫星衍　丁亥(1887)抱芳閣刊　岡倉題簽「碧龕」印あり
34868　金石三例 墓銘挙例　盧見曾輯　双峰閣蔵版　岡倉題簽「碧龕」印あり
34870　小蓬莱金石　黄易　嘉慶五年(1800)九月栞成　鄰蘇園金石叢書　岡倉題簽「碧龕」印あり
34875　呉興金石記　陸心源　光緒康寅(1890)涂月　楊峴拝題　岡倉題簽「碧龕」印あり
34883　東巡金石録　崔應階　梁翥鴻　岡倉題簽「碧龕」印あり
34885　欽定銭録　梁詩正　岡倉題簽「碧龕」印あり
34891　硃批桐陰論画　秦祖永　岡倉「碧龕」印あり
34899　金石萃編補正　方履籛　「金石淵藪」印あり　岡倉「碧龕」印あり
34909　両浙金石志　上　阮元　光緒十有六年(1890)浙江書局重印　岡倉題簽「碧龕」印あり
34915　両浙金石志　下　阮元　光緒十有六年(1890)浙江書局重印　岡倉題簽「碧龕」印あり
35075　古泉匯　李佐賢　同治甲子(1864)年鐫利津李氏石泉書屋蔵板　岡倉題簽「碧龕」印あり　明治 45（1912）年５月 20 日夜，北京本屋「買了」
35095　金石摘　陳善墀　岡倉「碧龕」印あり　明治 45（1912）年５月 20 日夜，北京本屋「買了」
35105　汗簡箋正　郭忠恕撰　鄭珍箋正　光緒屠維赤奮若(1889)栞 岡倉題簽「碧龕」印あり
35109　吉金所見録　初尚齢　道光丁亥(1827)春刊　古香書舎蔵板　岡倉題簽「碧龕」印あり
35113　移林館吉金図識　丁麟年　岡倉題簽「碧龕」印あり

35154　広金石韻府　林尚葵　岡倉題簽「碧龕」印あり
35158　長安獲古編　劉喜海　岡倉題簽「碧龕」印あり
35160　荊南萃古編　周懋琦・劉瀚　光緒甲午(1894)冬鴻宝署斎刊　岡倉題簽「碧龕」印あり
35282　吉金志存　李光庭　本宅蔵板　岡倉題簽「碧龕」印あり
35286　筠青館金石　吳榮光　道光壬寅(1842)南海吳氏校刊　鄰蘇園金石叢書　宜都楊氏輯栞　岡倉題簽「碧龕」印あり
35291　雍州金石志（記）　朱楓　岡倉題簽「碧龕」印あり
35303　武氏 偃師金石記 金石三跋　武億　岡倉題簽「碧龕」印あり
39995　粤西金石略　謝啓昆　岡倉題簽「碧龕」印あり

この内，「34334　玉台画史」「34341　敦煌石室遺書」「34374　夢溪筆談」に，「GIFT OF Okakura-Kakuzo 1918」と記されたシールが貼られており，1918 年に岡倉が寄贈したものとわかる．ただし，岡倉は 1913 年に歿しているので，遺族からの寄贈である[2]．また，この内，最も早期のものが「20797　名媛詩仙集」であるが，これら以外の図書室所蔵漢籍に，

16818　博古図録 附古玉図 自第一巻至第十巻 王黼　DEC 7 1916 GIFT OF Yamanaka & Co. New York.

が見え，この「16818　博古図録 附古玉図」が寄贈されたのは，すでに岡倉歿後 3 年目になる 1916 年 11 月 7 日であるとわかり，「20797　名媛詩仙集」はそれ以降，1918 年までに入っていることになる．

さすれば，これら岡倉旧蔵漢籍 39 件は，全て岡倉歿後に遺族から寄贈または購入されたものであるとわかる．

３．岡倉旧蔵漢籍の稀覯本と金石書

これら岡倉旧蔵漢籍の内，「20797　名媛詩仙集」「21062　孝経列伝」「21085　新編 古列女伝」は，付せられている番号から，以下のものよりやや早期に購入または寄贈されていると思われる．

この内，「名媛詩仙集」は，岡倉の「Onna Shisenshu 2vols. Japanese design, from Kambun 11th to Enpo 6th」という書き入れがあり，「Kambun 11th」は寛文 11 年(1671),「Enpo 6th」は延宝 6 年(1678)で，「思永館」印があることから，小倉藩藩校・思永館旧蔵書であることがわかる．

また，「新編 古列女伝」は，岡倉の「Ko Retsujoden 2vols. Chinese copy of book, Kayu 8th(1063ad) Printing Koki」という書き入れがあり，「Kayu 8th(1063ad)」は，宋の嘉祐 8 年(1063)，「Koki」は清の康熙で，岡倉は，宋の嘉祐年間の板本を清の康熙年間に翻刻したものと認識していたようだ。また，「小島氏図書記」印があることから，江戸後期の幕府医官で書誌に通じた小島宝素（1797—1849）およびその子である小島抱沖（1829—1849）の旧蔵になることがわかる[3].

図 3　ボストン美術館所蔵岡倉旧蔵漢籍③「20797 名媛詩仙集」]

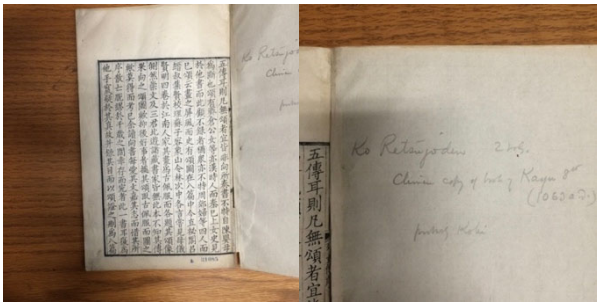

図 4　ボストン美術館所蔵岡倉旧蔵漢籍④「21085 新編 古列女伝」

また，「29604　博古図録」は，「趙氏家蔵」印（未詳）の下に，黄叔琳（1672－1756）の「北平黄氏万巻楼図書」印があり，岡倉の「Hakkozu－28vols. Kasei 7th－(Very rare, rarest of metal books)」という書き入れがある．「Kasei 7th」は明の嘉靖 728 年(1528)で，岡倉も「Very rare（とても稀少）」と言うように，清の探花（科挙の第三位及第者）で，官は吏部侍郎に至った黄叔琳の万巻楼旧蔵になる貴重な明板である．

図 5　ボストン美術館所蔵岡倉旧蔵漢籍⑤「29604 博古図録」

この「29604　博古図録」もそうであるが，「34700　金石叢書一」以下は，そのほとんどが金石書つまり金石学関係の書籍である．実は，これらの購入地点と時期がわかるのである．岡倉の「九州・支那旅行日誌」明治 45（1912）年の項[4]から抜き出しておく．

五月二十日夜　本屋
　古銭匯　十　13
　金石契　四本　5.5
　金石摘　十本　10
　吉金録　四　3.5
　両罍軒　彝器図釈　六　6　　買了
　金石三例　四　6
　積古斎　鐘鼎款識　六　6
　三礼図　二　2.5
　玉台画史　二　2
　銭録　6　四
May 21st Tuesday　夜蘭雪斎より
　金石萃編　五套　九元
　原搨金石図　壱套　九元
　原版考古類篇　壱套　三元
　初印金石叢書　六套　十四元　　40
　東巡金石録　壱套　二元
　広金石韻府　壱套　四元
　白紙汗簡箋註　九本　四元
廿五日総テ套ヲ作ルヲ約ス

この時，岡倉は，ボストン美術館のため，北京で収蔵品購入活動を行なっていた．その際，自身の書籍も購入していたのである．ここに見える書名の内，「古銭匯」は「35075　古泉匯」，「金石摘」は「35095　金石摘」，「金石三例」は「34868　金石三例 墓銘挙例」，「玉台画史」は「34334　玉台画史」，「銭録」は「34885　欽定銭録」，「初印金石叢書」は「34700　金石叢書一」「34707　金石叢書二」「34713　金石叢書三」「34721　金石叢書四」「34727　金石叢書五」「34734　金石叢書六」，「東巡金石録」は「34883　東巡金石録」，「広金石韻府」は「35154　広金石韻府」，「白紙汗簡箋註」は「35105　汗簡箋正」であると思われる．つまり，これらの金石書は，1912 年 5 月 20 日，21 日に，岡倉自身が北京で購入したもので，「廿五日総テ套ヲ作ルヲ約ス」とあることから，套（帙）もこの時，北京で作られたものであることがわかる．

4．金石書購入の必要性

では，岡倉はなぜ金石書を必要としていたのであろうか．大正 2（1913）年 5 月 16 日，岡倉は，前出の長尾雨山に書簡[5]を出し，以下のような依

頼をしている．

陳レハ又々御面倒の至ニ候へ共自然御閑暇モ被為在候ハヽ別封ボストン古銅器の銘二十四枚御読被下度 字体の年代幷ニ難解の処ニハ解釈御示し被下度

つまり，ボストン美術館所蔵古銅器銘文の解読を，長尾に依頼しているのである．この時，岡倉から長尾に送られた銘文拓片の残余 4 種および後に加えられた 1 種[6]の計 5 種 12 枚の拓片が入ったファイルがボストン美術館に残されている．このファイルには岡倉が毛筆で「銘文二十四枚，五月十六日，雨山に問合す」と書き入れており，上記の時のものであることがわかる．

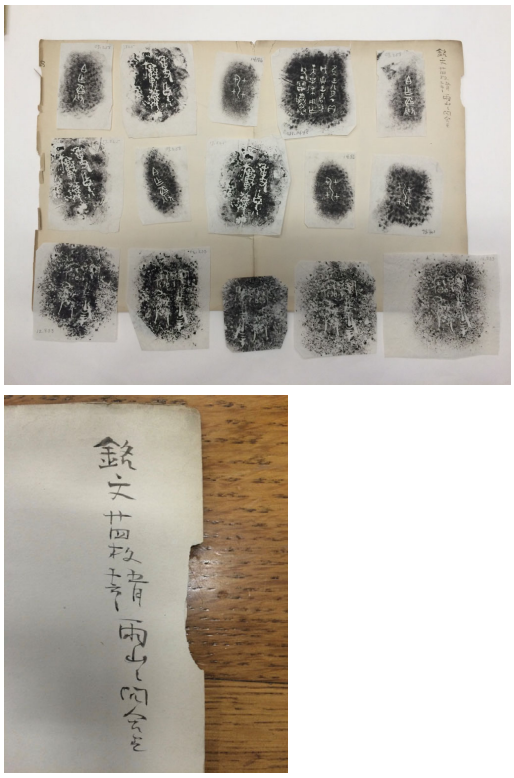

図 6　岡倉与長尾古銅器銘文解読依頼拓片残余（ボストン美術館蔵）

これらの拓片には，鉛筆でボストン美術館の収蔵番号が記されている．これに従い，ボストン美術館の記録から，岡倉が長尾に解読を依頼した拓片残余四種を抜き出しておく．

07.258 Bronze vessel. Chinese, T’ang dynasty. I 彝. Sacrificial vessel, Cup-shaped with two handles.

11.1448 Bronze Vessel. Chinese, Han dynasty. I 彝. Sacrificial vessel, cup-shaped with two handles.

12.833 Bronze vessel. Chinese, Chou dynasty. Sacrificial vessel. Round cu-shaped with two monster-handles.

17.825 Bronze Vessel. Chinese, Archaic Style. Tsun.

07.258 は，1906 年，岡倉が中国で購入し，1907 年 5 月に登録されており，1915 年に岡倉の学生で東洋美術史家の中川忠順（1873—1929），岡倉の友人で鋳金家の岡崎雪聲（1854—1921）が鑑定している．

岡倉は，1906 年 10 月 8 日から翌 1907 年 2 月にかけて，ボストン美術館収蔵品購入のため，中国に旅行し，「支那旅行日誌」[7]を付けているが，日誌は 1907 年 1 月 10 日で終わっており，上記の古銅器購入については記されていない．おそらくは，それ以降に購入されたのであろう．さすれば，購入は 1907 年に行われたことになる．ボストン美術館の記録によると，岡倉はこの旅行で，銅鏡 91 件，鼎彝 3 件の古銅器を購入している．

11.1448 は，1908 年 4 月 22 日，岡崎よりレンタルされ，1911 年 6 月 6 日，岡崎より購入されている．また，17.825 も同じく 1908 年 4 月 22 日，岡崎よりレンタルされ，ボストン美術館理事のデンマン・ウォルド・ロス（1853—1935）が購入し，1911 年 6 月 6 日，ロスよりレンタル，1917 年 2 月 15 日，ロスより寄贈され，1915 年に中川が鑑定している．

1908 年，岡崎からレンタルされたのは 19 件の古銅器で，この年の夏，岡崎所蔵の中国古銅器特別展が開かれており，その際，岡倉が書いた資料を「ボストン美術館所蔵自筆草稿」[8]によって見ることができる．ボストン美術館には，この展覧会の図録「CATALOGUE of OLD CHINESE BRONZES」（美術館蔵本には表紙に鉛筆書きで「Okazaki Collection」と記されている）が残されており，古銅器 12 件の写真が収められている．

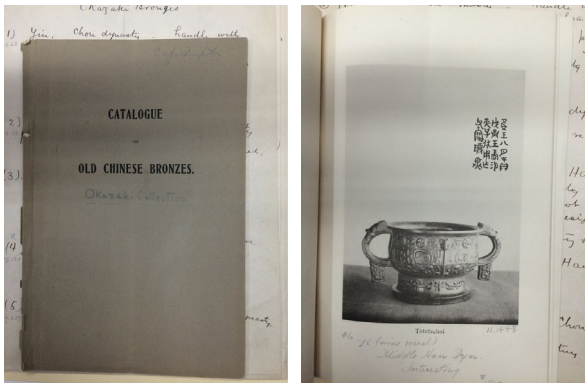

図 7　岡崎コレクションカタログ（ボストン美術館蔵）

ボストン美術館には，明治 43（1901）年 9 月 18 日，岡崎から岡倉に宛てた書簡が残されている．関連部分を抜き出しておこう（翻字，句読は松村）．

其節願上置候古銅の直段附，別帋之通りニ御聴候間，何卒宜処願上候．壱個買ニ相成候時ハ過日申上置候直段ヨリハ少々高価ニ相成候得共，其辺ハ宜処様御願申上候，且ツ又物品之義ハ壱個タリトモ不都合之品無之候間，御安心ニ御証明被下度願上候．

つまり，1908 年にレンタルされた古銅器コレクションをボストン美術館が購入するにあたり，その値段を伝え，一括ではなく，個別に購入の場合は「少々高価」になるとしており，さらには，自らのコレクションに「不都合之品」はないと言うのである．結局，1911 年 6 月 6 日には，この 11.1448 ともう一つ 11.1447 の計 2 件が購入されている．

12.833 は，1912 年 5 月，岡倉が中国で購入し，1915 年，中川が鑑定している．

岡倉は，1912 年 5 月 5 日から同年 6 月 6 日，ボストン美術館のため，北京で収蔵品購入活動を行なっていた．前出「九州・支那旅行日誌」同項から，注目すべき記述を抜き出しておく．

五月九日〔実際は十日〕
〔完顔〕景賢を半畝園ニ訪フ
May 11th Cabled Great success seble money care I at Legation Peking Okak〔ura〕　27.50
(2)尊古斎　古銅器四宋瓷—1250
宋徽宗搗練図一巻　金章宗の七章
旗人景剣泉の遺愛　1350
(5)式古斎　敦　500
May 12th
〇盛伯熙〔昱〕所伝の卣并ニ宋瓷 700
［〇論文斎］
長〔尾〕雨山　上海愛而近路 Elgin 路（豊陽館にて問合）商務印書館
May 16 Thursday
B 26 式古斎
盛伯熙もの　800
May 20 Monday
尊古斎
鼎　盛伯儀〔熙〕のもの　前に黄小松（易）の山東の人の故物
May 21st Tuesday
景賢氏より書面アリ　明早唐画を見ルの案内なり

このように，岡倉は，辛亥革命後の北京で，ボストン美術館の代表的収蔵品となった清朝高官・景剣泉（？—1884）旧蔵「宋徽宗搗練図」を手に入れた他，清朝貴族・完顔景賢（1875—1931）から書画を，清朝宗室・盛昱（字は伯熙，1850—1899）から古銅器を購入していた．そして，この盛昱コレクション購入に成功していた最中の 1912 年 5 月 20 日と 21 日に，前出の金石書を購入しているのである．

つまり，岡倉は，1906 年の中国での古銅器購入，1908 年の岡崎コレクションレンタル，そしてこの 1912 年の盛昱コレクション購入により，金石学の研究が必要になっており，金石書が購入されたのであろう．

5．長尾雨山の貢献

岡倉は，自ら金石書を購入し，金石学を学ぼうとしていたが，前述のように，古銅器の銘文解読は，当時上海に住んで呉昌碩をはじめとする中国文人と深く交わっていた長尾雨山に依頼していた．呉昌碩ら当時の中国文人は，樸学と称せられる古文学派経学の学統に連なる者が多く，その根幹をなす金石学に通じており，長尾も彼らとの交わりを通して，その素養を身につけていたのである．

岡倉は，前出「九州・支那旅行日誌」同項で，「May 12th」つまり 1912 年 5 月 12 日，盛昱の名前を挙げた日に，長尾の名前と住所を記している．盛昱の古銅器コレクション購入が進む中，岡倉は，

即座に長尾を思い浮かべているのである．それほど，岡倉にとって長尾は，この分野において頼りになる存在であった．

岡倉は，同年 8 月 23 日，上海に着き[9]，長尾と再会する．同年 8 月 26 日付ボストン美術館館長アーサー・フェアバンクス（1864—1944）宛書簡[10]に，

> 上海で優れた宋の絵画一点を見付け，交渉を開始しました．私は同地に住む旧友に指示を与えた上，幾らかの資金を渡して起きましたので，この絵画がわれわれのものになることを祈っております．

とあり，「旧友」つまり長尾がボストン美術館の絵画購入にも協力していたことがわかる．

岡倉は，同年 10 月 7 日，インドのカルカッタから長尾宛に書簡を出し，インドの友人で画家のガガネンドラナート・タゴール（1867—1938）に「神洲国光集又ハ中国名画集一揃」を，ガガネンドラナート・タゴールと弟のオボニンドラナート・タゴール（1871—1951）[11]各々に刻印を送るよう依頼している．

そして，同年 11 月 21 日付長尾宛書簡で，ボストン美術館東洋部（中国・日本美術部）鑑査委員を依嘱する旨が伝えられ，同年 11 月 15 日付フェアバンクス館長名の英文辞令が付せられている[12]．その後，1913 年 7 月，長尾からボストン美術館に呉昌碩「与古為徒」扁額が贈られることになるが，これは，長尾の鑑査委員就任記念品であったと筆者は考えている[13]．ボストン美術館は，現在もこの扁額を東洋美術展示場に掲げているが，これはボストン美術館が，呉昌碩の学問造詣の継承を標榜していることになる．岡倉は，長尾を通して，ボストン美術館の中国学の根底を固めたのである．

図 8　ボストン美術館東洋美術展示場の呉昌碩「与古為徒」扁額

6．岡倉の漢学造詣

岡倉が，1912 年，北京で行った収蔵品購入活動は，5 月 11 日，「Great success」と電報を打っているように，大成功を収めた．この北京での購入品を中心に，ボストン美術館は，1912 年 12 月 13 日から 1913 年 1 月 15 日まで「中国・日本美術新収品展」を開催し，岡倉は，1912 年 12 月の『ボストン美術館紀要』第 10 巻 60 号に，「中国・日本美術新収品展」[14]という文章を書いている．その「古代中国青銅器」の一節を見ておこう．

> 中国の学者は後代の青銅器に対して冷淡である．彼らにとって青銅器といえば古代青銅器を意味するが，彼らが古代青銅器を尊重するのは，その卓抜さのためばかりでなく，古典時代から残っているわずかな手がかりを含み，儒教的理想の芳香につつまれた祖先の諸祭式を思い起こさせるからなのである．これらの品々は，主に，供犠に際して使われた容器である．多くの場合，古体な文字で書かれた銘文を持っているが，その銘文は，出来事を記念したり，ある人物の思い出を神聖化したりするだけでなく，通例，その容器を宝物として守り伝えるよう子孫に命じる言葉で終わっている．我々は，後の作品と比較して，古代の供犠用青銅器の方にすぐれた美を認める事に同意せざるを得ない．時代が下るにつれて祖先崇拝の精神が変化を受け，単に過去の余韻となってしまったからである．

これは展覧会のために書かれた「美術」について

の文章である．だが，岡倉は，「美術」の解説に止まらず，美術品に具わる中国と中国文化の本質を提示しようとしている．岡倉のこのような姿勢が，金石書の購入や，長尾の鑑査委員依嘱に繋がり，これらがさらに岡倉の漢学造詣を深めさせたのであろう．

ボストン美術館中国・美術部図書室には，岡倉旧蔵漢籍以外にも多くの漢籍があるが，その中に，呉昌碩が初代社長を務めた印学研究団体・西泠印社刊行のものや，考証学者・羅振玉の著作が含まれている．ここにその一覧を挙げておこう．

西泠印社刊行
37086　遯盦古泉存　呉隠　(封面)宣統元年(1909)楊守敬題　西泠印社
37094　遯盦集古印存　呉隠　光緒戊申(1908)六月西泠印社輯
38751　蘇斎題跋　翁方綱　山陰呉氏遯盦金石叢書　西泠印社聚珍版
38756　東洲草堂金石詩抄　何紹基　西泠印社金石叢書
71256　国朝画家書小伝　葉銘　西泠印社蔵版

羅振玉著作
30465　殷墟書契　羅振玉　集古遺文第一　歳在壬子(1912)十二月二十六日上虞羅振玉序於日本寓居之永慕園
30804　北宋槧斉民要術残本　羅振玉　東山学社校刊書籍記
33521　夢韋阝艸堂吉金図　羅振玉　上虞羅氏印
34341　敦煌石室遺書　羅振玉　「GIFT OF Okakura-Kakuzo 1918」シールあり　「岡倉」楕円印あり　「波士敦美術館図書印」あり　「庚戌（1910）晩春羅叔言所贈今持贈呉浦大人先生 尚識」書き入れあり
35294　隋唐以漢印集存　羅振玉　上虞羅氏景印
35295　殷墟古器物図録　羅振玉　東山学社校刊書籍記　丙辰(1916)仲夏印
35296　古器物范図録　羅振玉　東山学社校刊書籍記　丙辰(1916)春編印
35297　古鏡図録　羅振玉　東山学社校刊書籍記上虞羅氏景印
35298　古明器図録　羅振玉　上虞羅氏景印
35307　再続寰宇訪碑録　羅振玉　面城精舎斠印
36572　殷文存　羅振玉　永豊郷人近著之一
38764　殷墟文字類編　羅振玉　商承祚　癸亥（1923）仲夏羅振玉署
38839　永豊郷人雑著　羅振玉
39127　沙州文録　羅振玉
39493　雪堂蔵古器物目録　羅振玉　甲子（1924）季春東方学会印行
39494　雪堂所蔵古器物図　羅振玉
39766　読碑小箋　羅振玉　唐風楼刊
46969　漢喜平石経残字集録　羅振玉
47630　殷墟書契詩問編　羅振玉　「July 6 1931 Through Yamanaka, Boston」
47645　古兵符考略残稿　羅振玉　「July 6 1931 Through Yamanaka, Boston」
47646　歴代符牌後録　羅振玉　東山学社校刊書籍記　「July 6 1931 Through Yamanaka, Boston」
47647　赫連泉館古印存　羅振玉　「代理経售羅振玉玻璃版各種碑金石書画亀版印譜 本社専售古今明清旧版書籍字画法帖 北京楊梅竹斜街青雲閣楼内 富晋書社」スタンプあり
48010　貞松堂集古遺文　羅振玉
?????　秦金石刻辞　羅振玉　上虞羅氏永慕園叢書　1914

すでに岡倉旧蔵漢籍として挙げた「34341　敦煌石室遺書」や，「July 6 1931 Through Yamanaka, Boston（1931 年 7 月 6 日山中商会ボストン支店より）」という書き入れがあるものは，入手経路がわかるが，その他は誰が入れたものかはわからない．

ただ，長尾は，1913 年 4 月，呉昌碩の紹介で西泠印社に加わっており，1914 年 12 月，帰国して京都に住み，当時，京都に寓居していた羅振玉（1919 年 6 月帰国）と極めて親しく交わっている．だから，これらの中に長尾が贈ったものが含まれている可能性は非常に高いと思われる．

筆者は，ボストン美術館での調査研究中に，それまで知られていなかった岡倉歿後の 1913 年 11 月 10 日に，フェアバンクス館長から長尾に宛てた「中国と日本に関する分野を担当する専門家委員会組織」への参加を求める書簡の控えを見つけていただき，紹介した[15]．長尾が，このボストン美術館の期待に応え，中国・日本美術部に必要と思われる漢籍を自らの見識により選んで贈っていたと考えても，なんら不自然ではないと思うのである．

おわりに

岡倉天心や長尾雨山が活躍した時代は，日本における漢学の転換期にあった．明治以前の日本において，清朝の樸学と呼ばれる金石学を根幹とする学問は一部を除いてほとんど知られることがなく，明治以降，この学問が紹介されると，先見性のある学者は，これを取り入れようとした．有名な明治 43（1910）年の狩野直喜，内藤虎次郎，小川琢治，富岡謙三，濱田耕作による京大五教官北京学術調査も，大きな意味では，日本の学者の眼に極めて新鮮に映っていた樸学の伝統を有する学問に直接触れることを目的としていたと思われる．

そのような状況の中，長尾は，1903 年 12 月から 1914 年 12 月まで，足掛け 12 年，上海に滞在し，呉昌碩ら中国文人と深く交流し，樸学の素養を身につけ，さらには，当時の中国文人が有していた樸学を根底とする書画篆刻といった文人趣味にも通じていたのである．このような日本人漢学者は長尾以外に見あたらない．つまり，長尾は，当時，最高の素養を具えた漢学者だったのである．

岡倉の幸運は，この長尾と若い頃からの友人であったことである．かくして岡倉は，ボストン美術館での中国美術品収集活動においても，最高の漢学者をアドバイザーに据えることができ，最高の成果を上げることができたと筆者は考えている．

そのような考えを持っている筆者は，ボストン美術館中国・日本美術部図書室で漢籍を拝見した際，そこに「長尾好み」とでもいうべき書籍が詰まっているように思えた．それを論証しようとしたのが本稿である．残念なことに，今，ボストン美術館では長尾の名前はほとんど知られていない．もし，本稿に意義があるとすれば，中国美術における岡倉の大きな成果の陰には，長尾の学識があったことをわずかながらも提示できた点にあると思う．

本稿は，文中で紹介したボストン美術館中国美術部長(Wu Tung Senior Curator of Chinese Art Museum of Fine Arts, Boston) ・Nancy Berliner 氏のご理解とご助力そして写真使用許可により執筆が可能となった．ここに深く感謝申し上げます．

付記

本研究は JSPS 科研費 JP17K02648 および大妻女子大学戦略的個人研究費 S3033 の助成を受けたものです．

注

[1]岡倉天心は，東京大学卒業後，文部省に勤務し，東京美術学校設立に参画，第二代校長となるが，排斥されて辞任，弟子の横山大観らと日本美術院を設立．1904 年，ボストン美術館の理事であったウイリアム・スタージス・ビゲローの紹介状を持ってボストン美術館を訪れ，顧問として採用された後，わずか 10 か月間で目録を作成し，日本や中国に直接出向いて作品購入を行うなど，卓越した能力を示し，1910 年，中国・日本美術部長に就任，ボストン美術館の発展に大きく貢献した．岡倉のボストン美術館における活動については，以下の論考に詳しい．

・Jan Fontein（石橋智慧訳）の「ボストン美術館東洋部を築いた人達―コレクションの歴史に関する諸ノートより―」（『月刊文化財』234 号，1983 年）

・Anne Nishimura Morse「正当性の提唱―岡倉覚三とボストン美術館日本コレクション」（『岡倉天心とボストン美術館』，名古屋ボストン美術館，1999 年）

・久世夏奈子「岡倉天心とボストン美術館」（『美術史』159 号，2005 年）

・清水恵美子『岡倉天心の比較文化史的研究 ボストンでの活動と芸術思想』（思文閣出版，2012 年）

[2]ボストン美術館の記録によると，1920 年 6 月 3 日，岡倉の相続人（the heirs of Okakura-Kakuzo）より，14 件の青銅器（内 1 件は盛伯熙旧蔵）および 1 件の絵画（宋の山水画）を購入しており，岡倉の遺族との繋がりは継続されていたことがわかる．

[3]小島宝素・小島抱沖については，多田伊織「小島寶素堂の終焉―小島尚絅と森鷗外『小嶋寶素』」(一般口演，一般演題抄録，第 41 回日本歯科医史学会・第 114 回日本医史学会合同総会および学術大会)（『日本歯科医史学会会誌』30 巻 2 号，2013 年）を参照．

[4]『岡倉天心全集』第五巻（平凡社，1979 年）所収

[5]『岡倉天心全集』第七巻（平凡社，1981 年）所収

[6]ボストン美術館の記録によると，この拓片は，岡倉歿後の 1913 年 11 月 13 日，岡倉の中国での収蔵品購入活動を助けた早崎梗吉（1874―1956）が中国で購入し，1914 年に登録された「14.86 饕餮紋彝」のもので，1915 年に中川忠順および岡崎雪聲の鑑定を経ており，1934 年 4 月 20 日，理事会

の決定により売却されている．

[7]『岡倉天心全集』第五巻（平凡社，1979 年）所収

[8]『岡倉天心全集』第八巻（平凡社，1981 年）の「解題」に見える

[9]『岡倉天心全集』第七巻（平凡社，1981 年）所収の 1912 年 8 月 23 日付中川忠順宛書簡によりわかる．

[10]『岡倉天心全集』第七巻（平凡社，1981 年）所収

[11]同上

[12]同上

[13]松村茂樹「近代のボストン美術館に見る日中米文化交流について―岡倉天心，長尾雨山そして呉昌碩の貢献―」（『人間生活文化研究』NO.27，2017 年）

[14]『岡倉天心全集』第二巻（平凡社，1980 年）所収

[15]同[14]

Abstract

The Museum of Fine Arts, Boston in the United States, is a world-famous museum, and also called the Oriental Art Hall of Fame. The oriental art collection was maintained by Okakura Tenshin (named Kakuzo, 1862-1913), who was enrolled from 1904 until 1913 when he passed away.

Okakura had an excellent academic knowledge, however he wasn’t familiar with Chinese studies, so he deepened his knowledge of Chinese studies with the help of his friend Nagao Uzan (1864-1942), who formed a friendship with “The last literati in China” Wu Changshuo (1844-1927). When he lived in Shanghai.

I stayed in Boston as a visiting scholar at Boston University for one year since April 2015, and had the opportunity to conduct research on materials about Okakura and Nagao at the Museum of Fine Arts, Boston. Then, in the library of the Chinese and Japanese Art Department, I surveyed 226 old Chinese books purchased, and created the list. It was included that 39 old Chinese books owned by Okakura.

In this article, I introduced and analyzed the old Chinese book collection of the Museum of Fine Arts, Boston. I hope that this article will reveal some of Okakura's achievements accomplished.

（受付日：2019 年 11 月 18 日，受理日：2020 年 2 月 10 日）

松村 茂樹(まつむら しげき)
現職：大妻女子大学文学部コミュニケ-ション文化学科教授

筑波大学大学院博士課程文芸・言語研究科中退 博士(文学，筑波大学) 専門は中国文化論，アジア太平洋国際交流論. 2015 年 4 月より 2016 年 3 月まで，ボストン大学客員研究員として，米国ボストンに滞在. ボストン大学アジア研究センターで発表するなどして，日中米文化交流研究を進めた.

主な著書：書と画を論じる(単著，研文出版) 呉昌碩と日本人士（単著，Otsuma eBook 大妻女子大学人間生活文化研究所）書を考える−書の本質とは(単著，二玄社) 呉昌碩研究(単著，研文出版) 呉昌碩談論−文人と芸術家の間−(単編，柳原出版) 書を探る−王羲之から書教育まで(単著，アートダイジェスト) 近代中国 の文化人と書(単著，研文出版) 鄭板橋(共著，芸術新聞社) 傅山(共著，芸術新聞社) 遺老が語る故宮博物院(共訳，二玄社)